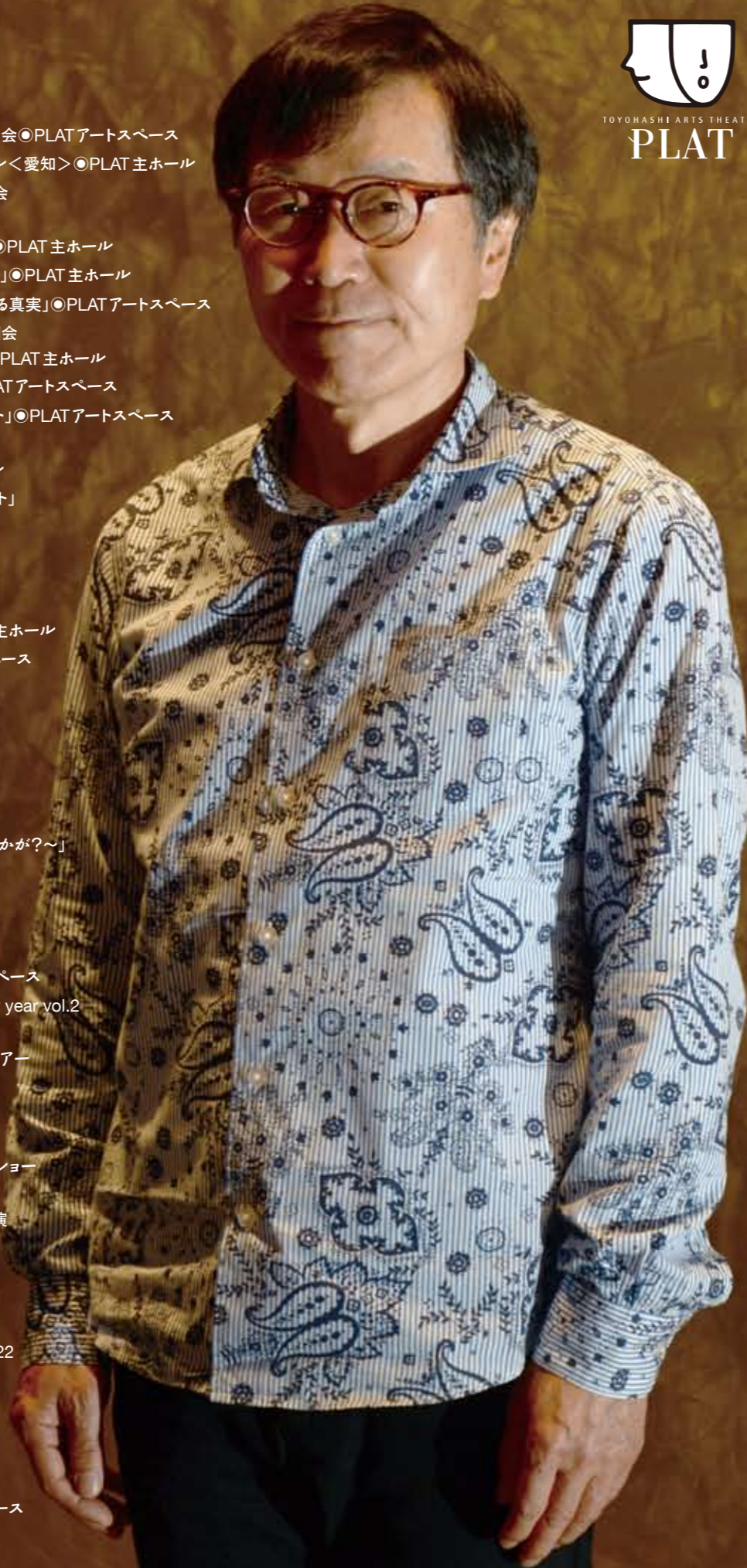


7  
July

- 2 [土] ショパン(株)ミュージックアカデミー第5回発表会◎PLATアートスペース
- 2 [土]—3 [日] 第158回NAMUEバレエコンクール<愛知>◎PLAT主ホール
- 10 [日] 豊橋おやこ劇場協議会 第472回高学年部例会  
『ピアノカの魔術師』◎PLAT主ホール
- 13 [水]—14 [木] 劇団300『私の恋人 beyond』◎PLAT主ホール
- 16 [土] 鈴木馨バレエスタジオ「THE ODORI VOL.43」◎PLAT主ホール
- 16 [土] プラットワンコインコンサート 波多野董「静かなる真実」◎PLATアートスペース
- 17 [日]—18 [月・祝] 豊橋演劇鑑賞会 第291回例会  
劇団民藝公演『新・正午浅草一荷風小伝』◎PLAT主ホール
- 21 [木] 「全日本ピアノコンクール豊橋地区予選」◎PLATアートスペース
- 22 [金] 藤城抄知子バレエアカデミー「バレエコンサート」◎PLATアートスペース
- 23 [土]—24 [日] 劇団 M.M.C ロックミュージカル  
『ロミオ&ジュリエット 復活編』◎PLAT主ホール
- 24 [日] さだまさしくトリオ+α1「第10回記念コンサート」  
◎PLATアートスペース
- 26 [火]—29 [金] 中部日本高等学校演劇大会  
愛知県大会東三河地区の部◎PLAT主ホール
- 31 [日] ASANOインターナショナル・バレエ  
第9回パフォーマンス—おさらい会—◎PLAT主ホール
- 31 [日] ブラヴィッシモ「音楽発表会」◎PLATアートスペース

8  
August

- 2 [火] プラットワンコインコンサート Quintet Azalea  
「ボンジュール・アゼリア!〜フレンチな音楽はいかが?〜」  
◎PLATアートスペース
- 6 [土] 劇団うりんて『ともだちや あいつもともだち』  
◎PLATアートスペース
- 6 [土] アイゲンアート・ミュージック presents  
「峯島望美ソプラノリサイタル」◎PLATアートスペース
- 6 [土]—7 [日] MUM&GYPSY 15th anniversary year vol.2  
マームとジプシー『cocoon』◎PLAT主ホール
- 9 [火]—11 [木・祝] ハート・グローバルジャパンツアー  
2022 夏 in 豊橋◎PLAT主ホール
- 13 [土] ダンス公演「Luce〜ユメノソノサキ〜」  
◎PLATアートスペース
- 14 [日] PUSHIM アコースティック LIVE & miniトークショー  
◎PLATアートスペース
- 19 [金] 第15回桜丘高校和太鼓部 桜花太鼓 自主公演  
◎PLAT主ホール
- 21 [日] 三河市民オペラ2023年公演  
『アンドレア・シェニエ』ガラ・コンサート  
◎PLAT主ホール
- 23 [火]—24 [水] プラット親子わくわくプログラム2022  
『ククノチ テクテク マナツノ ポウケン』  
◎PLATアートスペース
- 24 [水] 第20回小中学生による芸能フェスティバル  
◎PLAT主ホール
- 27 [土]—28 [日] お店をつくらう!  
小さなまちづくりプロジェクト◎PLATアートスペース



表紙／のん『私の恋人 beyond』  
撮影：市川唯人  
裏表紙／平田 満「対話を考える」  
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団  
編集・デザイン／味岡伸太郎+有限公司STAFF  
令和4年6月発行56号[隔月発行]



TOYOHASHI ARTS THEATRE  
PLAT

公益財団法人  
豊橋文化振興財団情報誌  
2022年7月—8月  
vol. 56



TOYOHASHI  
ARTS  
THEATRE  
PLAT

CONTENTS

表紙  
『私の恋人 beyond』のん  
2  
INTERVIEW:1  
『私の恋人 beyond』  
どうして人間は、殺りくを繰り返さざるを得ないのか。  
渡辺えり、のん  
4  
INTERVIEW:2  
マームとジプシー『cocoon』  
77年前と  
そのあとの時間を「今」にする。  
藤田貴大  
言葉にならないもの、  
まだ見ぬところへ届けたい。  
青柳いづみ  
8  
INTERVIEW:3  
プラット親子わくわくプログラム2022  
『ククノチ テクテク マナツノ ポウケン』  
ダンスは共存しつつ  
各々が個性を放つこと。  
北村明子  
10  
INTERVIEW:4  
平田満企画 対話を考える  
哲学対話の手法を  
いろんな所に  
使えないかと思うのです。  
平田 満  
12  
INFORMATION  
PLAT  
主催公演情報  
14  
PURA PURA  
バラコの寄り道ぶらぶら  
「ヒーローの微笑み」  
15  
SUPPORT  
TICKET CENTER  
裏表紙  
対話を考える  
平田 満

PLAT  
CALENDAR  
NEWS



# どうして人間は、殺りくを繰り返さざるを得ないのか。渡辺えり、のん

作・演出・出演

出演

矢作—— まずは、上田岳弘さんの小説「私の恋人」を舞台化した理由、30人の役柄を3人で上演した理由をお聞かせください。

渡辺—— 上田さんの作品のテーマと私が劇団を旗揚げしてから書いてきたテーマと近いと感じたんです。どうして人間は、長い歴史のなかで殺りくを繰り返し、一部の誰かが幸せになるために誰かが犠牲にならなくてはいけないのか。ということを私は書いてきたのですが、上田さんも似た視点で作品をつくっていました。「私の恋人」は、私が40歳のときに書いた『ガーデン～空の海、風の国～』という話と非常に似ていたのです。それを、インターネットの取材でしゃべったら、上田さんが公演を観に来てくれて、そこから交流が始まったんです。「塔と重力」を芝居化した『肉の海』と、「私の恋人」をやらせてほしいとお願いしたのが最初です。

『私の恋人』を3人でやるのは、元々人間の遺伝子は、アフリカの一つの部族という人種のアダムとイヴから枝分かれして現在まで生きていますよね。つまり自分の内部に一人ずつの歴史がある。それを人間が演じてしまうということとはできないだろうか。しかもそれが男にも見えて女にも見えて、おばさんにもおじさんにも見える。つまりこの人は女らしいとか男らしいと、既成概念を持たないような感覚の役者たちでそれをやったらリアリティがあるのではと。

のんちゃんも、性を超えているというところが好きで

す。男とか女とかではなく、人間としてそこに存在し、少女にもおばさんにも見えるし、青年にも少年にも、おじさんにも見える瞬間がある。小日向さんもおばさんの役が本当にうまい。

男だから威張っているとか女だから見下すことが一切ない。おばさんやおじさんの面白さ、少女や少年の面白さ、何でも差別なくものを見ることができる。そういう2人だからこそ、1人で何役もやるのもおもしろいんじゃないかと。主人公の高橋という青年も、最後の「私の恋人」ものんちゃんが演じる。作家の上田さんも想像を絶する芝居になっちゃった。2人のキャラクターがあったから面白くてきたのです。

矢作—— のんさんが初演の際に思ったことや、作家、演出家、俳優としてのえりさんの魅力についてお伺いできますでしょうか。

のん—— 本当に刺激的でした。『私の恋人』初演が初舞台だったので、ドキドキしていました。ものすごく大変でしたが本当に楽しくて、勉強になりました。えりさんの、舞台を面白くするという気持ちを毎日ひしひしと感じ、頑張っついていかなきゃと思っていました。えりさんは大先輩で、大演出家ですごい方ですが、対等な目線でお話ししてくれる。初舞台でんやわんやだけど、求められているハードルが高いから、それがうれしかったです。

渡辺—— 何度も経験のある人は「あり得ない」となるの

を、初めてだからそういうものだと思ってくれた。イメージの世界だから、それを具現化するのとはとても大変なこと。でも、私が全体を考えている間に、小日向さんがのんちゃんに演技指導で細かいことを言ってくれて助かった。

矢作—— 初演からこの3年間の状況の変化で、つくり直すと宣言されましたが、どういう部分を変える予定なのでしょう。

渡辺—— 2019年には、何が現実で何が虚構かわからない演出で、現実の客席からの登場が2、3カ所あったのです。でもコロナ禍で、その演出が難しいので、舞台上に現在の私と小日向さんとのんちゃんという生身の人間がいて、という出だしの書き換えを考えている。今、ウクライナ戦争が始まり、ますます小説が現実味を帯びてきた。アウシュヴィッツで拷問を受けて餓死した人が高橋という東京の大学生に生まれ変わる。その前は、クロマニヨン人に絶滅させられたネアンデルタール人だった。ウクライナでもパレスチナでもミャンマーでも、拷問を受け死んでいる人がいるという現実を入れていく。初演も原作にはない満州のサーカス団や、引きこもりの人が傭兵としてテロリストになるなどずいぶん書き足しました。

私が3年前に虚構で書いたことが現実になり、満州にいた日本人がシベリアに抑留され、そのシベリアにウクライナ人も抑留され、歴史が繰り返された。それを満州の設定にも、出だしにも入れたいから、2箇所大きく

オフィス3〇〇

## 『私の恋人 beyond』

30人の役を3人で演じる音楽劇。

7月13日[水]19:00開演

7月14日[木]13:00開演

作・演出＝渡辺えり

原作＝上田岳弘「私の恋人」(新潮社)

出演＝小日向文世、のん、渡辺えり／

松井 夢、坂梨磨弥、関根麻帆、山田美波

会場＝PLAT主ホール

加える。あと、引きこもりの高橋の兄が傭兵となってシリアに行きテロリストとなるシーンを初演で入れましたが、あれから未来の今、それらの外人部隊がウクライナでも戦う現実がある。その部分を進化させようと思っています。また初演では絶対に歌わないと言っていた小日向さんが、今回は歌っても良いと言っているの、新曲を作ります。コロナ禍で客席から出る演出ができないので、三人の登場をどうするか?今考えています。登場のインパクト欲しいですね。

矢作—— 再演にあたってのんさんはどんなことを楽しみにしていच्छゃいますか。

のん—— 初舞台のときとは違って、もっと自分が理解して没入感のある演技ができればいいなと思っています。それを目標に。

矢作—— 最後にお二方から、来場されるお客さまにメッセージをいただけますでしょうか。

のん—— 初めての土地はわくわくするし、皆さんにお会いできるのが楽しみです。本多劇場を経てグレードアップしてお届けしますので、お楽しみにお待ちください。

渡辺—— 昨年度のKAKUTA豊橋公演では、本当にお客さまの反応が温かく、演劇を心待ちにしているのを感じました。演劇ファンではない方、芝居を初めて観る方もぜひ期待して観に来ていただきたいと思います。楽しみにしています。

矢作—— ありがとうございます。

渡辺えり[わたなべ・えり]／劇作家・演出家・俳優・歌手。1955年1月5日生まれ。山形県出身。「オフィス3〇〇」主宰。『ゲゲゲの怪獣』に挿れるブランコで岸田國士戯曲賞、『隣の女 だれか海からの手紙』で紀伊國屋演劇賞を受賞する等、創作も評価されている。俳優としても『おしん』や『あまちゃん』をはじめ多くのドラマに出演、映画『Shall We ダンス?』では日本アカデミー賞最優秀助演女優賞受賞。他多数の受賞歴を持つ。コロナ禍により活動が制限される中、2020年に行った作品「さるすべり」が英訳され、自身2作目の英訳出版となった。また、歌手としても活躍。自身の訳詞提供なども行っている。

のん／女優、創作あーちすと。1993年兵庫県生まれ。2016年公開の劇場アニメ「この世界の片隅に」で主人公・すずの声を演じ、第38回ヨコハマ映画祭「審査員特別賞」を受賞。また2020年に主演を務めた映画『私をくいとめて』で、第30回日本映画批評家大賞にて主演女優賞を受賞。同作は同大賞の監督賞や、第33回東京国際映画祭唯一のコンペティション「TOKYOプレミア2020」部門で、観客賞を受賞した。女優業のみならず映画製作も手掛けており、初の劇場公開長編映画「Ribbon」では、脚本・監督・主演を務めた。2022年は9月に「さかなのこ」、10月に「天間荘の三姉妹」の公開が控えている。

# 言葉にならないもの、 まだ見ぬところへ届けたい。

出演

青柳いつみ

矢作—— 2020年にツアーをする予定が、コロナの影響で延期となり、ようやく2022年に起動するにあたって、どんなことを考えてツアーに挑もうと思っていच्छやるのでしょうか。

藤田—— マームとジブシーの新作公演として、2022年2月に那覇文化芸術劇場なはーとのこけら落としで『Light house』という作品を発表しました。『Light house』は『cocoon』と同じく沖縄を題材に取り組みました。『cocoon』の作業を続けて10年、その間もずっと沖縄を見つめて来ました。この1年半は初めて『cocoon』の作品世界から離れて沖縄にまつわる作業をして、やっとできたのが『Light house』です。『Light house』に取り組んだからこそ次の『cocoon』は広がりや角度が全然違う気がします。また、2020年に発表することを中断してから、2年間ただ停止していたのではなく、キャストの皆さんには毎月ボイトレを続けてもらったり、映像作品を製作したり、みんなで準備してきました。

矢作—— 青柳さんは、初演の2013年からずっと出演さ

れ、作品に携わり続けていますが、どのようにこの作品をとらえているのでしょうか。

青柳—— 『cocoon』のことは、上演する・しないに関係なく常にずっと考えています。ずっと考え続けていることから、「もう1回やるぞ」と気合を入れ直すというより、再演からはもう7年も経っているんだということに結構びっくりしました。

藤田—— 青柳さんは僕よりも沖縄に何回も行っていいね。『cocoon』が終わっても年に何回も。

矢作—— 青柳さんにとって作品を離れても、沖縄のどこかところが惹かれますか。

青柳—— なんて行ってるんでしょうね。毎回同じ場所、戦跡に行っていますが、自分にはまだ見るべきものがあるんだと思う。

藤田—— 「行かなきゃ」となるんだよね、不思議と。昨年8月にPLATでも上演にした『めにみえない みみにしたい』を沖縄で上演した時も、その作品と沖縄は直接関係はないのだけどメンバーと荒崎海岸へ行って手を

合わせたり。

矢作—— 今回は、2013・2015年の上演と2020年にやろうとしたこととの大きな違いはどういったところでしょうか。

藤田—— 基本的には2020年に考えていたプランをベースに考えます。稽古はこれからなのでどうなるかわかりませんが、今は学校のシーンをエンディングまでリフレインさせようと思っています。今までの『cocoon』はマユとサンの二人が海まで辿り着くという話の流れでしたが、2人が最後の海岸を走っていても、「みんな」がいる／「みんな」の足音がするというふうには。それと、これまで上演してきた会場に比べて劇場の規模が大きいため、美術のイメージも自然と変わっています。音の感じも全然違うものになりそうです。2020年から2年をかけて、郁子さんや録音を担当している東さんが沖縄でフィールドレコーディングをしに足を運び続けているので、素材もだいぶ揃って来ていて2020年よりも大分手段というか手数が増えている気がします。

矢作—— 今回キャストが大きく入れ替わり、新しい人たちの出会いに対してどうのことを期待していच्छやいますか。

藤田—— 初演時のメンバーも、7年前の再演のメンバーも僕にとってはかけがえのない人たちです。今までの『cocoon』に納得がいてないとは全く思っていません。2015年の再演は自分の中ではある種の到達点だとも思っています。でもあれからこの作品がさらに先に行くためには、実は舞台経験がもっと少ないキャストでもいいのかもと思ったんです。沖縄で生々しいリアルな声をたくさん聞いて来たので、それに近いことをやってみたいんだと思います。

青柳—— だから今はボイス・トレーニングがすごく大変です(笑)。

藤田—— だとしてもやはり声は客席に届かないといけな。上演空間が大きくなるから、俳優の訓練が必要なので、ボイトレを重ねられたことはとても良かったです。2020年に上演していたら、3月にオーディションで出

## INTERVIEW:2



作・演出

藤田貴大

8月6日[土]・7日[日]13:00開演  
原作=今日マチ子「cocoon」(秋田書店)  
作・演出=藤田貴大  
音楽=原田郁子  
出演=青柳いつみ、菊池明明、小泉まき、  
大田優希、荻原綾、小石川桃子、佐藤桃子、  
猿渡遥、須藤日奈子、高田静流、中島有紀乃、  
仲宗根葵、中村夏子、成田亜佑美  
石井亮介、内田健司、尾野島慎太郎  
会場=PLAT主ホール

# マームとジブシー 『cocoon』

7年ぶりに新演出で上演。

藤田貴大[ふじた・たかひろ]  
マームとジブシー主宰/演劇作家。2011年に発表した『かえりの合図、まっけた食卓、と、きつと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞受賞。13年・15年、沖縄戦に動員された少女たちに着想を得て創作された今日マチ子の漫画『cocoon』を舞台化。同作で16年、第23回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。著書に『おんなのこはもりのなか』、『Kと真夜中のほとりて』、『mina-mono-gram』(今日マチ子と共著)、『蜷川幸雄と「蜷の綿」』(蜷川幸雄と共著)他。20年7月初の小説集『季節を告げる蠢は夜が知った毛毛毛』を上梓。

青柳いつみ[あおやぎ・いつみ]/舞台女優。マームとジブシー、チエルフィッシュ両劇団を平行し国内外で活動。また演出家・鉛屋法水や彫刻家・金氏徹平との活動、音楽家・青葉市子とのユニット、近年は文筆活動も行う。漫画家・今日マチ子との共著『いつみさん』(筑摩書房)、朗読で参加している詩人・最果メヒの詩のレコード『こちら99等星』(リトルモア)を現在リリース中。

『cocoon』  
ツアーメンバー

演者が決まって、2カ月後には稽古が始まってという予定でしたので。今考えると、今回のメンバーと長く過ごす時間は必要だったと思うので、その点では2年間という時間があつたのは本当に良かったなと思います。

青柳—— 今回のメンバーには普段あまり声を出したことがないんじゃないかなという人もいたりして、大きな声を出すということ自体が、すごいチャレンジング。でも、これまでのポイトレを経て、『cocoon』という大きな意志があると、その人の本当の声が出てくるんだなと今実感しています。

藤田—— 今のウクライナ侵攻の問題も本当に凄惨な話だし、沖縄の戦争では、12歳の子も動員されていたという事実があります。そこにプロの俳優という強い身体をただ持ってきても、その華奢さや脆さを表現はできない気がしてしまうのです。もっと生々しいものを突き詰めていくと、俳優経験の無いキャストイングになっていく。一方で、成田亜佑美さんや萩原綾さんらの、今まで『cocoon』に出演していなかったマームとジプシーのレパトリーメンバーもオーディションを受けて出ることになりました。

矢作—— 今回、会場が大きくなり、セットのボリューム感も大きくなっていく感じを見込んでいるのですか。

藤田—— PLATのアートスペースだったら客席と役者の人数の規模としてはあれが限界だったかもしれないですね。客席と舞台の境目がほとんどなかったし、あれはあれで面白かったけど。今回PLATの主ホールのような規模の劇場が多いので、美術は立体的なものを考えていて、ボリュームは大きくするけど、ちょっとすっきりもさせたいです。ただ、ツアー先が全て主ホールの規模でもないから、小さいセットも作るつもりもあります。

矢作—— 音楽について使う楽曲は毎回少しずつ変えていますよね。

藤田—— 今回丸々変わるとしています。全部レコーディングし直して、それも東京のスタジオで録るのではなく、沖縄で録るということにこだわりました。沖縄の知り合いのみなさんが営んでいるピアノがあるカフェとか。今はまた違うアプローチで、現地の人の声を録ってみようとか、いろんなことを話しています。僕とは別働隊で沖縄に行って録り直しているから、本当に贅沢な作業ができていく気がします。

矢作—— 積み重ねることによって沖縄の空気をもつと作品の中に取り入れようということなのですか。

藤田—— そうですね。沖縄の空気を伝える資料や本はこっちでも読めることもあるけど、やはり沖縄に行かなければわからないことがあると思います。沖縄の空気をできるだけはらんでいきたい。ただ一方で、コロナ禍で沖縄に行きづらいというのはあり、そこを無理して「行く」ということが全てではないとも思います。東京でできることはする、でも行かなければできないこともある。そういうバランスはこの時代だからか、なるべく極端にならないようにみんなで話し合っています。

矢作—— 青柳さんにお伺いしたいのですが、積み重ねること、考え続けることによって、自分の中で『cocoon』という作品のイメージは変わってきたものですか。

青柳—— 『cocoon』は変わらない。でも、生きて考えた時間の分だけ、あらゆる側面が見えてくる。ということはまだ見えていないものもたくさんあつて。沖縄だけでもそうなんだから、私は何も見えてないんじゃないかという気もする。

矢作—— 俳優青柳いづみとしては、藤田さんの作品だけではなく、誰と、どんな作品をやったとしても、似たような感覚で作品に向き合っているのでしょうか。

青柳—— 同じだと思います。その感覚をことばで説明す

るのは難しいですが。すべては観客が何を見るか、ということなので。できることなら、まだ言葉にならないもの、まだ見えていないところへ届けたいとも思っています。

矢作—— 青柳さんが俳優を続けているモチベーションはどういうところにあるのでしょうか。

青柳—— コロナのときは、もうこの職業はこの世界に必要なのではないかと思っていました。でもやはり藤田さんが何かを見たいと思う限りはやるべきなんだなと。俳優というか、自分が生きているモチベーションはたぶんそこにしかないな。演出家が見たいと思う世界を見せたい。と、沖縄はまた別というか、何ですかね。

藤田—— 沖縄に対してのモチベーションは、はたから見ていると異様にある気がするけど。

青柳—— 私は私のしかたで、沖縄と関係できたら、と。演劇しかできないんですけど。

藤田—— でも、青柳さんは沖縄で知り合いをどんどん作るし、そこでできた知り合いが僕との対談相手になったりするから、僕にとっても青柳さんから聞く沖縄は重要なんです。僕はあんまり自分で行って収穫を得てくるタイプではなくて、1回青柳さんにまず行ってもらって、そこで誰かと出会い、「こういうことがあつて、こういうことをあの人は言ってたよ」という話を聞いて、それで僕が会いに行くという。

青柳—— 藤田さんが初めての人と全然しゃべらないので、まずは私がしゃべってから繋げたりします。私も得意ではないんですけどね。

矢作—— いろんな意味でチームワークとしていろんな出会いができて、『cocoon』にも影響が出てきているのではないかと思います。

藤田—— 一番の違いは7年前までは『cocoon』という世界だけを成立させようとしていたことかもしれません。今の沖縄にまつわる様々な問題というのは、もちろん77年

前に終わったわけではなく、むしろ77年前から返還までの沖縄、返還後も沖縄だけに強いられている諸問題がありますよね。『cocoon』以後の世界をどう見つめていくかをこの7年、準備をしているのだと思います。77年前のあの6月で時間を止めてしまわないで。高江のヘリパッドや辺野古の基地問題、最近の選挙の感じやこのツアー中の県知事の選挙もそうですが、ここ数年の沖縄の情勢は目まぐるしく変わりつつあります。地図そのものが変わってしまうのではないかと思うくらい。「今」起きていることから目を背けないで、『cocoon』が「あの頃」の物語だと一括りにされて語られないように上演できるかどうかだと思います。それが、自分の仕事だと。

矢作—— 最後に豊橋の人に向けて、メッセージをお願いします。

藤田—— 豊橋はいつも沢山のお客様に来ていただいて、うれしいです。去年は2回、豊橋に行けたのですが、そのときに今までよりも豊橋の町をかなり歩きまわりました。あそこにお城があるとか、これぐらい歩いたら川に出られるとか、行けば行くほど面白い町だと思って。とにかく今年も足を運ぶことができると楽しみです。豊橋にはマームとジプシーを見続けてくださる人がいるように思います。前回の『cocoon』も観ていて、今回の『cocoon』も観るという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。『cocoon』とかマームとジプシーというだけじゃなくて、そういう取り組みをしている劇場だだと思いますし、そう楽しむことができる「観客」を劇場が育てているんじゃないかな。

青柳—— 豊橋は演劇フレンドリーなイメージがありますね。以前、豊橋の大学に伺ったことがあつて、そこで知り合った学生さんが見に来てくれたりとか。

矢作—— 『cocoon』で皆さんにまたお越しただいて、豊橋周辺の人たちに観ていただけるのを楽しみにしています。よろしくをお願いします。



# ダンスは共存しつつ 各々が個性を放つこと。

振付・演出

北村明子

— 昨夏初演を迎え大好評を博した『ククノチ テクテク マナツノ ボウケン』が、この夏穂の国とよはし芸術劇場にやってきます。本作は北村さんにとって初めてのキッズ・プログラムだったそうですね。

北村— 子供を意識した作品を作ったのは初めてで、お話をいただいたときは私自身大変驚きました(笑)。作品のテーマは、夏休み、冒険、挑戦で、私にとってはキッズ・プログラムへの新しい冒険であり挑戦となりました。イメージを膨らませ、みなさんに冒険を体験してもらえようという作品を作ろう、そんな想いで始めています。

日本の夏休みといえば、お盆というイメージがまずありますよね。ただ私自身は東京生まれなのでお盆を訪ねて行くような田舎もなく、帰省する友達の羨ましく思っていたのを覚えています。お盆とは何かというと、死者を弔う儀式であり、祖先と対話する場でもある。霊を送る儀礼の場という意味を持ち、そこからリサーチして辿りついたのが、木の精霊“ククノチ”でした。ククノチ(久久能智)は日本神話に出てくる木の神さまで、神聖なる木という部分に非常に日本的なもの、お盆のイメージと重なるものを感じました。

— 作品作りで子供も楽しめるよう意識したこと、普段の創作との違いはありましたか？

北村— キッズ・プログラムではあるけれど、あまり子供向けにしようとは考えていませんでした。子供用にマイルドにするのはむしろ失礼だと思ったし、容赦はしないぞと、きちんと向かうべきだと決めていました。ただお子さんにも届きやすい物語仕立てにしている、そこは普段と全く違う試みでした。物語は私の創作で、お盆を想起させるようなお話にしています。まずは自分の子供の頃を振り返り、いろいろな絵本をリサーチしてきました。子供の頃どんな物語にイメージを刺激されたのか、この年齢になった私が未だに面白いと思う絵本は何なのか……。

ただ物語に振り回されてしまったら、ダンスの魅力が欠けてしまう。みなさんにダンスを体感してもらえよう、一緒に踊るシーンを作っています。さらに会場に工作コーナーを設け、公演前にオリジナルのお面を作ってもらいました。子供向けではあるけれど、大人の方々も夢中になって作っていましたね。自分の手で自分だけの何かを作るという工程は、作品世界の非常にいい導入になったように思います。

— セットは現代美術家の大小島真木さんのコラボレーションで、独創的な舞台空間を生み出しています。

北村— KAATのキュレーター中野仁詞さんから大小島さんを紹介していただき、その瞬間一目で恋に落ち

ました(笑)。彼女の作品は身体と自然が融合したアートが多く、それはどこか死者を思わせる。大小島さんの中に自然と人間の共生や死生観がテーマとしてあって、それはまた私が展開してきたテーマと重なる部分がありました。

舞台には人間の身体の一部をモチーフにしたオブジェを置いています。それらが持つエネルギーが人間をどこかへ連れていき、そしてときに冒険の旅の切符となるような——。私自身こうしたオブジェを作品に使うのは初めてで、ダンサーにとっては大変な作業だったと思います。オブジェと身体の遊びをテーマに、ダンサーがいかにか絡んでいけるか一つ一つ動きを探っていました。

— 振付けはどのように行なったのでしょうか。

北村— ダンサーに言葉でイメージを渡す場合もあれば、音に動きをあてはめて渡したりと、シーンごとに違う手法を取り入れています。みんな私の信頼する脂の乗り切ったダンサーばかり。一人一人異なるバックグラウンドを持っていて、それぞれの良さを伝えよう、それぞれの良さを必ず入れていこうと決めていました。

私にとってダンスを創作する一番の動機になっているのが、多様な人間が一つの共同体を作っていく有様を見せることであり、共存しつつ各々が個性を放つこと。

ダンサーのそんな魅力を伝えられたらと考えていて、そこは普段と同じ作り方だったと思います。

— お客さまの反応はいかがでしたか？

北村— 普段の私のお客さまと層があまりに違って、最初は“こんなに子供がいて大丈夫なの!?”と心臓がバクバクでした(笑)。なかには泣き出しちゃう子やじっと座ってられない子もいたけれど、それをよしとする雰囲気であって、何だかいいなと思いましたね。

ダンス体験にしても、やはりお子さんの方が無邪気に100%没頭できる。終演後に小さな男の子が“あー楽しかった!”と踊りながら帰って行ったり、かと思えば小学校3、4年生の女の子が“何かよくわからなかった”と親御さんに話していたり(笑)。そこには嘘がないと思いたし、正直な身体の反応が見えてとても新鮮でした。

— 最後にお客さまにメッセージをお願いします。

北村— 小さなお子さんはもちろん、幅広い方にご覧いただき、感じたことを自由に話してもらえたらと思っています。例えば恋人同士で観て“自分の絵本体験はこうだった”と話したり、親世代と祖父母世代が“昔のお盆はこうだったよね”と話をしたり。ダンスを通して各々の想いを話すことが、自分たちの生活や文化の変化を改めて見つめるきっかけにもなる。それはダンスというものの一つの魅力ではないかと信じています。

北村明子[きたむら・あきこ]  
/ダンサー・振付家、信州大学  
教授。1994年ダンスカンパ  
ニーレニ・パッツ設立。2010  
年よりソロプロジェクトとし  
て、世界各地のフィールドリ  
サーチから創作する国際協働  
制作プロジェクトを開始。2019  
年第13回日本ダンスフォー  
ラム大賞受賞、令和2〜3  
年度文化庁文化交流使。  
<http://akikokitamura.com>

## INTERVIEW:3



プラット親子わくわくプログラム2022

# 『ククノチ テクテク マナツノ ボウケン』

「夏休みのお盆」をテーマに自然や生命をめぐる。

8月23日[火]15:00開演 / 8月24日[水]14:00開演

振付・演出＝北村明子 / 美術＝大小島真木

出演＝川合ロン、清家悠圭、岡村樹、黒須育海、井田亜彩実、永井直也

会場＝PLATアートスペース

## 平田満

俳優・穂の国とよはし芸術劇場PLATアンシエント・アーティスト

哲学対話の手法をいろんな所に使えないかと思うのです。

矢作——本年度から「平田満企画『対話を考える』」と銘打ち新シリーズが始まりました。vol.1として梶谷真司さんを講師にお迎えして「哲学対話ワークショップ」を開催しましたが、平田さんがどうして哲学対話を実施したいと考えたのか。この先どのようなことを目指したいかをお伺いできますでしょうか。

平田——哲学対話の良いところは、上下関係とか力関係とか出ないような仕組みになっているところです。本当に自分の頭で考える感じ、その人が主体的に物を考えて、喋ることができる環境にあるというのは、悪いことではない。むしろそうあるべきなのです。

長年演劇をやってきましたが、稽古場というのは、ある意味フラットな、誰が強くて、誰が弱いとか関係なく、みんなが同じように力を合わせるというのが集団で創作する時の大原則です。海外の演出家と仕事をした際に、いわゆる日本の演劇でよく行われているような『ダメ出し』ではないということを体験しました。

矢作——それは、どのようなものだったのでしょうか。

平田——まず、俳優に聞くわけです。なぜ、それをしましたか？それは、どういう理由ですか？それに答えているうちに、いかに俳優はいいかげんにやっていたかに気がつく。さらに、やりづらいことはありますか？何か疑問に思っていることはありますか？とうするときに考えます。いかに日本の俳優が、努力をしてないかということ。自分で考えて、何かうまくいかない。まずそこを感じるこ

平田満企画

## 対話を考える

自由に語り、互いに話を聞き合い、考えを深めるワークショップ。

とが大事。では、それはなぜなのかと理由を考える。そこまで行けば、『ダメ出し』なんか必要ない。

共演者とうまく行かない場合に、相手側に問題があることがあります。でも、その共演者と演出家のいる稽古場では、その問題について直接言及するのは難しい。でも、上手いいかないのはなぜだろうと考えて、共演者の人ともフラットに、立場を損なうことなく話しができれば、解決できたりします。それは回り道のようにけど、それにより、緊密な舞台になっていく。演出家が俳優を自分の思い通りに動かすのではなく、いかにやりやすくなるかというのが演出であり、それを体験したのです。

矢作——その稽古場での体験がまずあったということなのですね。

平田——それである時、哲学対話というものを知り、自分が求めていたものは、ここにあるではないかと気づくとともに、哲学対話のルールに、僕は目を見開かされました。

哲学対話の良さをわかった人が、これを取り入れてくれれば、会社の話にしろ、何かのミーティングにしろ、芝居の稽古にしろ、他の人に対する接し方が変わるのではないか。哲学対話の手法をいろんな所に使えないかと思うのです。

矢作——出発点としては、俳優としての気づきとか、願望などから、この企画が始まったということですね。しかし、今回の哲学対話ワークショップに俳優の人が参

加していたかという、そうではありませんでした。しかし、参加者それぞれの環境で、その気づきを生かしてもらえば、個人の生き方がより豊かな方向になることを期待しているということでしょうか。

平田——今日のワークショップで参加者の方達の話聞いていて、そんなにきつい職場で働いているのかと思いました。

でも、そう発言していた人たちが、こんなに楽にしゃべることができるのか。自分の考えたことに対して、自信が持てる。あるいは社会的な尺度と関係なく面白いことを発言して、いいことを聞いたと実感できる。日常生活の中で自信をなくしている人に自信を持ってもらいたい。そのためにはどうしたらいいかという、普段やっていることに疑問を抱き、普段の逆のことをする。そうすると、豊かな気持ちになったり、人に優しくなれたりということが起きるのだというのを、みんなに知ってもらいたい。

矢作——それが哲学対話ワークショップを勧める一番の理由なのですね。

平田——そうしたら、次に精神科のオープンダイアログのことを知って感心しました。医者とか看護師とか、今まで上に立っていた人達が、患者さんとか家族に自らの手の内を晒して、全てを理解してもらおうということでした。精神科のいわゆる専門にやってらっしゃること以外でも、応用することができるのではないかと。演出家などにこの手法を使ってほしいと考えました。

矢作——今後の企画については、様々な対話についての考え方や実践例を紹介しつつ、参加者とともにみんなで考えてみる、というようなことを長期的なスパンで、継続的に行っていくことも目指すということでしょうか。

平田——将来的には、ファシリテーションをできる人が集まって、じゃあ誰がファシリテーションする？というような感じで、対話する場ができるようになっていけば、あとはそのような人材や場が増殖していけば、みたいな希望は持っています。

賛同者というか、やり方や何か同じような体験をした人が、ちょっと集まるような場ができれば何かいい方向に行くような気がするのです。

矢作——はい承知しました。この長期計画と一緒に付き合いいただければと思います。

## 哲学対話のルール

- 何を言ってもいい。
- 人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- 発言せず、ただ聞いているだけでもいい。
- お互いに問いかけるようにする。
- 知識ではなく、自分の経験にそくして話す。
- 話がまとまらなくてもいい。
- 意見が変わってもいい。
- 分からなくなってもいい。

平田満[ひらた・みつる] / 愛知県豊橋市出身。つかこうへい事務所にて俳優活動をスタート。映画・テレビ・舞台などに数多く出演。映画『蒲田行進曲』で日本アカデミー賞主演男優賞など受賞。舞台『こゝろには、母さん』『ART』『THE NETHER』で読売演劇大賞男優賞を、『海をゆく者』『失望のむこうがわ』『荒れ野』『POPPY!!!』などを制作、出演。穂の国とよはし芸術劇場PLATの初代芸術文化アドバイザー。2018年4月より同劇場アソシエイトアーティストに就任。今年7月サイモン・ステューブンス作『ハイゼンベルク』に出演予定。

# INFORMATION

## PLAT主催・共催公演情報

プラット親子わくわくプログラム2022『クノチ テクテク マナツノ ボウケン』



撮影:大洞博晴

舞台手話通訳付き公演『凜然グッドバイ』(2021年)舞台写真



**6/18 [土]** 14:00開演  
**6/19 [日]** 12:00開演  
**『黄昏』**  
 1978年の初演以来、日本を含む世界各地で上演され、ゴールデングローブ脚本賞を受賞した作品が豊橋に初登場! ●作=アーネスト・トンプソン ●翻訳=青井陽治 ●演出=鶴山仁 ●出演=高橋恵子/瀬奈じゅん、松村雄基/石田圭祐ほか ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]8,800円

**好評発売中**  
**共催**

**6/25 [土]** 13:00開演  
**イクウメ**  
**『関数ドミノ』**  
 超常的な世界観で人気を博すイクウメの代表作。2005年の初演から次々に進化を続けてきた『関数ドミノ』をアップデートした2022年版としてお届けします。 ●作・演出=前川知大 ●出演=浜田信也、安井順平、盛隆二、森下創、大窪人衛/温水洋一、小野ゆり子、太田緑ロランス、川嶋由莉 ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席5,800円、A席4,000円ほか

**好評発売中**  
**2022マイセレクト4**

**7/13 [水]** 19:00開演  
**7/14 [木]** 13:00開演  
**オフィス300**  
**『私の恋人beyond』**  
 ●作・演出=渡辺えり ●原作=上田岳弘『私の恋人』(新潮社) ●出演=小日向文世、のん、渡辺えりほか ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席7,500円、A席5,500円、B席4,000円ほか  
 [特別協賛=サーラグループ]

**好評発売中**  
**7月14日のみ 2022マイセレクト4**

**8/6 [土]** 13:00開演  
**8/7 [日]** 13:00開演  
**マームとジブシー**  
**『cocoon』**  
 ●原作=今日マチ子『cocoon』(秋田書店) ●作・演出=藤田貴大 ●音楽=原田郁子 ●出演=青柳いづみ、菊池明明、小泉まきほか ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席5,000円、A席3,000円ほか ※6日(土)は終演後トークあり。

**好評発売中**  
**8月6日のみ 2022マイセレクト4**

**8/23 [火]** 15:00開演  
**8/24 [水]** 14:00開演  
 プラット親子わくわくプログラム2022  
**『クノチ テクテク マナツノ ボウケン』**  
 ●会員先行=6月18日(土) ●一般=6月25日(土) ●振付・演出=北村明子 ●美術=大小島真木 ●会場=PLATアトスペース ●料金=[全席指定]大人3,500円、U25 1,700円、こども(高校生以下)500円  
**【関連事業】**  
**8/8[月]**11:30~15:30  
**『クノチ テクテク マナツノ ボウケン』**  
**プレワークショップ『森の化身になろう!』**  
 葉っぱや枝でお面やマントをつくり豊橋公園へ出かけて森の精霊や化身になってみよう! ●講師=大小島真木 ●ダンス=川合ロン ●会場=PLAT創造活動室Aほか ●参加費=無料 ●定員=20人(応募者多数の場合は、本公演チケットをお持ちの方優先) ●対象=小学生以上。10歳未満は一部保護者の同伴が必要です。 ●申込方法=6月18日(土)より①申込書に必須事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

**8月23日のみ**

**9/10 [土]** 14:30開演  
**9/11 [日]** 14:30開演  
**舞台手話通訳付き公演**  
**『楽屋一流れ去るものはやがてなつかしき』**  
 清水邦夫の代表作『楽屋』を舞台手話通訳付き公演として上演します。  
 ●会員先行=7月2日(土) ●一般=7月16日(土) ●作=清水邦夫 ●演出=樋口ミユ ●手話監修=河合依子 ●出演=ののあざみ、大浦千佳、服部容子、小野里満子 ●舞台手話通訳=加藤真紀子、高田美香、水野里香 ●会場=PLATアトスペース ●料金=[全席自由・整理番号付き]一般2,000円、U25 1,000円ほか  
 [特別協賛=サーラグループ]  
**【関連事業】**  
**8/31[水]**18:30開演  
**映画「こころの通訳者たち**  
**What a Wonderful World」上映会**  
 2020年度PLATで実施した「舞台手話通訳付き公演『凜然グッドバイ』」での舞台手話通訳者や、音声ガイドプロジェクトを追った長編ドキュメンタリー映画。 ●監督=山田礼於 ●会場=PLATアトスペース ●料金=[全席自由]500円(『楽屋一流れ去るものはやがてなつかしき』のチケットをお持ちの方は無料) ●申込方法=7月2日(土)より①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み②プラットチケットセンターに窓口・電話(0532-39-3090)で申込み

**9月10日のみ**

**9/28 [水]** 14:00開演  
**若手音楽家育成事業**  
**新津くらら ヴァイオリンリサイタル**  
 ●会員・一般同時=7月15日(金) ●会場=PLATアトスペース ●料金=[全席自由・整理番号付き]一般2,000円、U25 1,000円ほか

**9月28日のみ**

**マイセレクト4 対象公演**  
**マイセレクト4 2022**

ミュージカル『夜の女たち』



江口のりこ



伊原六花 撮影:御座岡宏士



前田敦子

『住所まちがい』



仲村トオル



田中哲司



渡辺いっけい



朝海ひかる



イクウメ『関数ドミノ』

**9/30 [金]** 18:30開演  
**10/1 [土]** 13:00開演  
**10/2 [日]** 13:00開演  
**ミュージカル『夜の女たち』**  
 1948年、戦後すぐに公開された映画、溝口健二監督「夜の女たち」の初の舞台化。戦後間もない大阪釜ヶ崎を舞台に、生活苦から夜の間に堕ちていった女性たちが、必死に生き抜こうとした姿を描いた作品を、長塚圭史が上演台本、演出を手掛け、初めてミュージカルに挑みます。  
 ●会員先行=7月16日(土) ●一般=7月30日(土) ●原作=久板栄二郎 ●映画脚本=依田義賢 ●上演台本・演出=長塚圭史 ●音楽=荻野清子 ●振付=康本雅子 ●出演=江口のりこ、前田敦子/伊原六花、前田旺志郎、北村岳子、福田転球/大東駿介、北村有起哉ほか ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席10,000円、S席ベア18,000円、A席8,000円、B席6,000円ほか ※各発売日初日はお一人様1申込につき1公演4枚までの枚数制限あり。

**10月1日のみ**

**10/13 [木]** 13:00開演/19:00開演  
**10/14 [金]** 13:00開演  
**『住所まちがい』**  
 ミラノ・ビッコロ座の座付作家ルイーザ・ルナリが1990年に発表した作品の本邦初演。同じ場所で遭遇し、混乱に巻き込まれる男性三人を仲村トオル、田中哲司、渡辺いっけいが演じ、物語の鍵を握る謎の女性役は朝海ひかるが演じます。 ●会員先行=7月23日(土) ●一般=8月6日(土) ●原作=ルイーザ・ルナリ ●上演台本・演出=白井晃 ●出演=仲村トオル、田中哲司、渡辺いっけい、朝海ひかる ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席9,000円、S席ベア16,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか ※各発売日初日はお一人様1申込につき1公演4枚までの枚数制限あり。  
 [特別協賛=サーラグループ]

**10月14日のみ**

**若手音楽家育成事業**  
**プラットワンコインコンサート**  
 「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。 ●会場=PLATアトスペース ●料金=[全席自由・整理番号付き]500円

**7/16 [土]** 14:00開演  
**『静かなる真実』**  
 波多野董(ピアノ)

**8/2 [火]** 14:00開演  
**『ボンジュール・アゼリア!~フレンチを音楽はいかが?~』**  
 Quintet Azalea [クインテット・アゼリア]  
 西前葉天子(クラリネット)、成田萌(ヴァイオリン)、本間京(ヴァイオリン)、三浦可菜(ヴィオラ)、福田悠佑(チェロ)

**9/2 [金]** 18:30開演  
**『Prayer for peace ~平和への祈り...そして、願い~』**  
 山本愛花音(ピアノ)

## U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。  
 ●料金=U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円 ●購入方法=各公演の一般発売初日から取扱い。 ●その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

**ワークショップ・レクチャー**  
**6/21 [火]** 18:00~21:00  
**6/27 [月]** 13:00~16:00  
**映像配信技術講座 2022**  
**【講座・トークのライブ配信編】**  
 PLATの備品を活用して講演・講座などをYouTubeライブでオンライン配信を行うための方法を学びます。 ●講師=佐原宏信(穂の国とよはし芸術劇場PLAT) ●会場=PLAT創造活動室A ●参加費=1000円 ●定員=各日5名(先着) ●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

**7/3 [日]** 13:00~15:00  
**ワークショップファシリテーター養成講座2022前期 関連企画**  
**キックオフ講座**  
**『つながるしくみ、ひろがるしくみ**  
**一穂の国とよはし芸術劇場を事例に~』**  
 ●講師=吉野さつき(愛知大学文学部メディア芸術専攻)ほか ●会場=PLAT研修室(大) ●参加費=無料 ●定員=30名(先着) ●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

**ワークショップファシリテーター養成講座**  
**2022前期**  
 長期的・継続的な視点でワークショップを進行する人材「ファシリテーター」を地域に育成する連続講座。前期では「ワークショップ縁日」に向けて、ワークショップをつくりながら進行について学んでいきます ●日時=7月17日[日]~9月24日[土][全8回] ●講師=柏木陽、すぎてーた、吉野さつき ●会場=PLAT ●対象=18歳以上で極力全日程参加できる方。 ●料金=3,000円 ●定員=20名(応募者多数の場合は選考) ●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み ●申込締切=7月8日[金]17:00

**8/28 [日]**  
**ワークショップ縁日**  
**『げきじょうであとぼう』**  
 演劇づくりに、カラダを使ったゲーム、プラットだからできたこの縁日。みんなといっしょに劇場まるごとつかって遊んじゃおう! ●会場=PLAT創造活動室Aほか ●対象=小学生以上 ●参加費=無料

## 「ヒーローの微笑み」

芸術文化アドバイザー

桑原裕子

子どもの頃、近所の家で火事があった。同級生のM君の家だ。

ご近所の人びとが勢揃いしてM君の家を囲んでいた。私が見たときは発火からどのくらい経った頃だろう、家から火が吹き出ている記憶はないから、もしかすると大方消えていた頃かもしれない。憶えているのは人だからと、その人びとから少し離れた場所で、既に避難して焼けた家を茫然と眺めているM君一家の姿だ。

父と火事を見ていた私は、何か指示を受け、自宅に走った。

「水を汲んできて!」あるいは「消化器持ってきて!」……などと言われたように記憶していたが、とつくに消防隊は来ていたはずだから違うか。「お母さんに知らせて!」だったかもしれないが、ともかくなにがしかの指命を受けた私は、M君の家から三〇〇メートルほどの距離を夢中で走った。

走りながら……うっすら自分が微笑んでいることに気づいた。なんなら息切れする音に混じって「へへっ」くらいの笑い声を漏らしていたかもしれない。

自分の笑みに気づいた私はハッと、慌てて真顔を作った。なぜ微笑んでしまったのか自分でもわからず、恐ろしくなった。

火事を喜んでいただけではもちろんない。火事は怖かった。やじ馬根性という奴で、ご近所中が寄り集まる特殊な状況に興奮していたところはあったかもしれない。しかしそれ以上に、自分が何か人の役に立っていることが嬉しくて、「つい輝いてしまった」のだと、後になってわかった。

ヒーロー気分には酔い、人の不幸で輝いた自分の浅ましさを。ほんの一瞬の微笑みではあったが、その後長らく後悔と自己嫌悪に苛まれた。憔悴して焼けた家を眺めるM君一家の姿を思い出しては、申し訳なきに泣いた。

以来私は自分でも他人でも“火事場で輝い

ちゃってるとき”を、敏感に察知してしまうようになった。

例えば演劇の創作現場で誰かが怪我をしたとする。その時にいち早く動き、処置に走ってくれる人がいる。あるいは「みんなも気をつけて!」と強く注意を促す誰か。必要だし、ありがたいことには違いないのだが、そんな人の中にわずかでも輝きを見つけてしまうと、あの時微笑んだ自分と重なって見えるのだ。

SNSの世界ではウクライナ情勢、コロナ対策、ハラスメント問題など、多くの人々が声を挙げ、正しさを求めて話し合っている。そこに对话が生まれるなら基本的には素晴らしいことだと思う。殊にセクシャル・ハラスメントの#metoo運動は、演劇界でも実体験を元に声を挙げる人が増えてきた。目をとらさずに向き合い、今こそ改善しなければならぬことだ。勇気を振り絞り告白した人、傷ついた人たちの声を聞き、自分も何か出来ることはないかといってもたつてもいられなくなる。鈍感に生きてきたこれまでの重い自戒と共に、告白した人たちへの賛同と連帯の気持ちを抱く。

ただ、その周囲で声を挙げて啓蒙活動を行う人の中にも時折、「あの火事場で輝いた私」を見つけてしまうことがある。彼らの中には確かに正義の気持ちがあるのだが、ちょっと待って、あなた輝いちゃっていませんか。被害者に寄り添うこと以上に、活動そのものに“うっかりいきいき”してしまいませんか、と。

今年5月に演出した舞台『ロビー・ヒーロー』は、そんな正義感に対して様々な角度からクエスチョンを投げてくる物語だった。

マンションロビーの警備員をしているジェフは、無責任な好奇心から、上司が巻き込まれたある殺人事件の重大な事実を知ってしまう。時を同じくして知り合った女性警官ドーンにそのことを話すべきか、上司のために秘すべきか、ジェフは葛藤する。

正義とは誰の側に立つかによって複雑に

変化するものでもある。ヒーローになるため踏み込んだ正義への希求が、果たして誰かを傷つけることもある。その責任を、自分は背負えるのか。安易に首を突っ込んだ代償は大きい。

としてジェフが秘密を握っていることを知り厳しく追及する警官ドーンの心にも、正義感と自らの利己的な野心が交錯する。

終盤、ついに真実を知ったドーンは「とうなんだ……」と眩きながらつい微笑んでしまい、ジェフに「今なんて笑ったの?」と問われる。コミカルなシーンだが胸が痛い。とう、彼女もまた「あの火事場で輝いた私」だった。彼女とて出発点は心からの正義心で事件の被害者に同情していたはずなのに「凄いこと知っちゃった」とつい、輝いてしまったのだ。

M君宅火災の一件以来、己の輝きに懐疑的になった私は、誰かを助け、人の役に立つために行動することに臆病になったかもしれない。でも、それでは行動しなくて良いのか。私に出来ることはない、正しさなんてわからないとさじを投げて良いのか? いやとうじゃない、というメッセージも『ロビー・ヒーロー』には込められていたと思う。

自身の行動の代償として信頼を失い傷ついたジェフは、同じく失敗してキャリアを失ったドーンの肩を抱く。自分はダメダメだったし、何者にもなれていない。それでも、今からでも、行動しよう。誰かを助けるために。そんな小さな一歩だ。

“ほんとうに善いこと”は簡単には見つからない。誰もが思う正解なんてこの世にはないのかもしれないし、人の不幸で微笑みを浮かべるヒーローはいない。

けれど様々な人の側に立ち、考え、もがき、葛藤すること。それは決して無意味なことじゃない。そうして心を傾け、恐れと責任を引き受け動いた結果、もし自分以外の誰かが心からの笑みを浮かべたなら、ヒーローは小さく微笑みを返すのかもしれない。

## SUPPORT

知識製造業  
**三遠機材株式会社**  
 http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES architects engineers  
**吉野設計研究所**  
 http://www.440a.co.jp

有限会社 **魚伊**  
 電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店  
**白羽楽器 株式会社**  
 電話 053-464-3015

竹内産婦人科  
 産婦人科 婦人科 (不妊治療)  
 豊橋市新本町23 (豊橋市西産婦人科) 産婦人科

ケンチク 701  
 KURONO ARCHITECT STUDIO  
 y.qlo0170@gmail.com

看板広告 **アラキスタジオ**  
 豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら  
**精文館書店**  
 TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる  
**株式会社オノコム**

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科  
**医療法人栄真会 伊藤医院**  
 豊橋市小池町字原下35 電話45-5283 (代)

創業文政年間 **数きく宗**  
 豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。  
**豊橋調理製菓専門学校**  
 豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

**豊橋銀行協会** (順不同)  
 三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行  
 三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行  
 十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店  
**若松園**  
 御菓子司

**気まぐれコンサート**  
 事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)

安心 安全な地下駐車場  
**パ・ケ500**  
 プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科  
**医療法人 塩之谷整形外科**  
 理事長 塩之谷 昌  
 豊橋市植田町閑取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 **舟あくわ**

**井上皮膚科クリニック**  
 診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00  
 土 10:00～14:00 休診日=水・日・祝  
 電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。  
**共和印刷株式会社**  
 豊橋市小池町36番地1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科  
**医療法人 大岩整形外科・皮フ科**  
 院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆 書道用品専門店  
**高誠堂**  
 豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得  
**株式会社 三光製作所**  
**三光精密工業株式会社**  
 豊橋市佐藤一丁目12番地の3

## sala

サーラグループ

広告募集

## TICKET CENTER

### チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口  
**0532-39-3090** [休館日を除く 10:00～19:00]  
 オンライン  
**http://toyohashi-at.jp** [24時間受付・要事前登録]



### プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
  - 2 インターネットでチケット予約ができます。
  - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

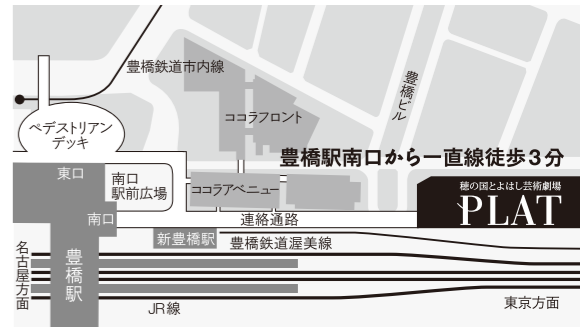
### U25・高校生以下割引のご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

- 料金  
 U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額  
 高校生以下:1,000円
- 購入方法  
 各公演の一般発売初日から取扱い。
- その他  
 本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。  
 座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。  
 一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

### 令和4年6月1日からの劇場代表電話の受付時間変更について

- 穂の国とよはし芸術劇場の代表電話の受付時間を、令和4年6月1日(水)より以下の通りといたします。なお、開館時間・休館日につきまして変更はございません。
- 代表電話番号 0532-39-8810
  - 電話受付時間 9:00～20:00(休館日除く)
  - 対応開始日 令和4年6月1日(水)



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
 電話=0532-39-8810[代表](9:00～20:00)  
 開館=9:00～22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。  
 第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
 豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、  
 新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
 ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、  
 お近くの公共駐車場等をご利用ください。

## 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT